

平衡対ケーブルによる無装荷搬送方式など

Non-loaded pair cable carrier systems

平衡対ケーブルを長距離伝送に用いて成功したのが、日本が開発した無装荷搬送方式である。信号電流の減衰を真空管増幅器で補うとともに、ケーブルの構造に工夫を加え漏話を最小に抑えた。戦前から用いられたこの方式は戦後も開発が進み、60通話路を実現した。

平衡対ケーブルは短距離搬送方式や短距離PCM方式にも使用している。

長距離無装荷搬送方式用1.2mm8対平衡対ケーブル(1941年～)

1.2-mm 108-pair paired cable for long-distance non-loaded cable carrier system (since 1941)

短距離搬送方式用100対市外PEFケーブル(1958年～)

100-pair toll PEF cable for short-distance carrier system (since 1958)